

＝祈りの絆＝

連盟の被災地支援に関する情報は、連盟ホームページをご覧ください。<http://www.bapren.jp/>

◆これまでの活動

福島の子供たち避難プロジェクト

昨年3月12日に東京電力福島第一原発1号機13日に3号機、15日には4号機が水素爆発をしました。あれからもうすぐ1年半を迎えます。それはマスクに長袖。長ズボンの洋服着用、外遊びはしない。怒も開けられない生活を与儀なくされてきた日々であり、子どもを抱える親にとっては何を食べさせたらよいのか、また頻繁におきる余震など、緊張の連続の毎日でした。

「福島の子供たち避難プロジェクト」は、そのような親子の震災ストレスの軽減、また、医学的根拠に基づいてセシウム排出効果を期待したプロジェクトです。(5歳以下の子どもは14日でセシウム半減、10歳以下までは十分効果あり)今年の3月末に、沖縄バプテスト連盟から福島県内の子どもたちへ小羊大会への招待をいただきました。早速、郡山コスモス通り教会の子どもたち4人と引率2人、福島旭町教会より子ども8人、引率2名を送り出し、参加者全員の交通費と各教会引率者1名分の参加費は、連盟に寄せられた募金を用いさせていただきました。

今夏、この避難プロジェクトに対して海外から200万円、女性連合より国際緊急募金として50万円をいただきました。

郡山コスモス通り教会の子どもたちは、白神山キャンプに始まり、天城の全国少年少女大会参加、九州地区、蔵王などへの避難プログラムを実施しました。福島旭町教会は、沖縄連盟主催の少年少女大会参加、天城の全国少年少女大会参加、大阪地区での子どもたちキャンプ、会津キャンプと夏休みが終わる直前まで各地に散らばり、両教会で約80人が避難プロジェクトに参加することになります。

医学的にみると半年に一度、このような計画と内部被曝検査を実施することが必要だとアドバイスをいただきました。ぜひ、次の冬休みか春休みにも短期のプロジェクトを計画したいと思っています。このような避難プロジェクトは、長期間の継続プログラムとしていかなければなりません。皆様の募金をよろしく願っています。



白神山地・暗門の滝
郡山コスモス通り教会

◆これからの活動

大槌町小館仮設団地 談話室設置

遠野ボランティアセンターを通して支援活動を展開している大槌町には仮設団地が48箇所あります。そのうち22箇所にも今も談話室がありません。それは、各自の部屋に一日中、閉じこもるしかない環境ということですね。町の復興計画は5年とも8年とも言われる見通し。阪神淡路大震災を通して、今からは、自死や孤独死が増えていく時期になるといわれます。そこで、テキサス連盟からの募金と皆様からの募金とを合わせ、大槌第7仮設住宅に新築の談話室、第4仮設住宅の談話室の増築計画をたてました。

一人ではないことに気づく場所、生きる希望や意欲を持つ場所になってほしい。そのようなことを願いつつ、冬になる前には完成予定です。お祈りください。

(現地支援担当 金子千嘉世)



第七仮設談話室新築予定地



第四仮設 増築予定

◆遠野ボランティアセンター便り

今月は夏休み期間ということもあって、多くの学生が来てくれました。

8月6日に東京女子大学の学生5名、引率1名が来連。8月7日には小館第4仮設で定期お茶この会の手伝いをしていただきました。雨天でもあり仮設の方は8名と少なめでしたが、引率の城倉由布子先生の伴奏で歌をうたい楽しい時を過ごしました。

8月7日の夕刻に西南学院大学の本学生11名、引率2名が到着し、8月8日から総勢22名にて初めての学習支援ボランティアを行いました。東京女子大学と西南学院大学の混合で3チームをつくり、3日間、8箇所の仮設で夏休みの宿題や自由研究の手伝いと一緒に遊ぶ時間を持ちました。初日は、それぞれが緊張した面持ちでしたが、2日目以降は大学生が来るのを時間より早く待っていて、とても喜んでくれました。ボランティアの学生も有意義な時を持つことができたようです。震災以降、精神的なショックで一人であることが多くなったという小学校3年生の女の子がいましたが、大学生がい

てくれたことで、また友だちの輪に入ることができたようです。

但し、多くの仮設の子どもたちは日本バプテスト連盟の関係者だけでなく、他のボランティア団体も含めて多くの別れを繰り返しています。子どもたちが喪失感に慣れぬよう、また喪失感で心が疲れないようにお祈りを願っています。

(遠野ボランティアセンター 主事 佐藤浩)



東京女子大学と西南学院大学混合による学習支援ボランティア



遠野ボランティアセンター ボランティア募集

◆9月の募集

日程 9月24日(月)～28日(金)
応募締め切り 9月10日(月)まで
募集人員 15人

※集合時間は後日お知らせします。
9月4日～7日は青年ボランティア隊、9月11日～15日まで西南学院大学本学生が活動します。覚えてお祈りください。

旅費補助対象になるのは、移動日を除き、活動日が2日以上です。初日と最後の日は移動日と考えると最低3泊4日の計画が必要です。

◆祈りの課題◆

1. 早急な原発事故の収束
4号機の燃料棒の取り出しがすみやかに行われるように。
2. 被災地にある教会の支援活動が豊かに用いられていきますように。行き帰り、事故のないように。
3. 仮設住宅から移転していく方々への対応に知恵が与えられるように。
4. 被災地におられる方々の健康が支えられますように。

東日本大震災被災地支援委員会 原発課題班コラム 原子力発電所事故と放射能について 知っておきたいこと③

「必要神話」その1

「原発は(今のところ)社会にとって必要なのだ」という言葉を、わたしたちは聞くことがあります。「原発への依存度を徐々に下げるべき」という言い方にも、「今は必要です」という匂いが嗅ぎ取れます。本当に原発がなければ今すぐに電力不足になるのでしょうか。

全電力供給のうち45%が原子力発電であった関西電力のデータを例にとりましょう。国内最大の「原発依存」度なのですから関西電力域内で電力不足が起こらなければ他の地域でも大丈夫でしょう。関西電力は5月19日に『今夏の需給見通しと節電のお願いについて』という文書の中で、2012年7月16日から8月31日まで、1日の最大電力需要を2,987万kWと見積もりました。そして自社の供給力を原子力発電抜きで2,542万kWとし、445万kWの不足を大飯原発3・4号機の再稼働と節電で乗り切りたいと主張しました。大飯原発3・4号機は各118万kW、合計236万kWの供給力です。

ではこの夏、大阪で34.9度という最高気温を記録した7月17日の電力の需要と供給はどうだったのでしょうか。7月18日の『東京新聞』によると、最大電力需要は2,301万kWにとどまりました。原子力発電無しでも9%以上の余力があったということです。関西電力は3%の余力が常に必要と言っていますが、現実には3%どころか、さらに6%余裕があるのです。

大飯原発3・4号機を再稼働しなくても電力は足りています。関西電力は、過大に見積もった見通しについて謝罪・撤回・下方修正を誠実にやるべきでしょう。それが「フクシマ後」のあるべき姿です。

(原発課題班担当 濱野)

東日本大震災被災地支援募金にご協力ください

すべての支援活動は、募金によって支えられています。

2012年度募金の目標総額は2000万円

2012年4月～7月で国内募金は4,775,487万円がすでに捧げられています。

同上4月～7月で海外からの指定募金は8,439,228円がすでに捧げられています。

お祈りとご協力に心から感謝申し上げます。

送金先: 郵便振替00140-9-180881 宗教法人日本バプテスト連盟総務部

※「大震災被災地支援募金」と明記してください。

※募金は極力、教会単位でご送金ください。海外からの募金は別口座になります。

総務部までお問い合わせください。